

平成28年第6回東京都北区教育委員会臨時会

会議月日	平成28年7月26日(火)午後1時30分		
開催場所	北区教育委員会室		
出席委員	教 育 長 清 正 浩 靖	委 員 森 岡 謙 二	
	委 員 森 下 淑 子	委 員 加 藤 和 宣	
	委 員 檜 垣 昌 子	委 員 嶋 谷 珠 美	
欠席委員			
事務局職員	教育振興部長	教育政策課長 (東京オリンピック・パラリンピック教育調整担当副参事) (教育未来館長)	
	学校改築施設管理課長	学校支援課長	
	生涯学習・学校地域連携課長	教育指導課長	
	教育支援担当課長	飛鳥山博物館長	
	中央図書館長		
	学校適正配置担当部長	学校適正配置担当課長	
	子ども未来部長	子ども未来課長	
	放課後子ども総合プラン推進担当副参事	子どもの未来応援担当副参事	
	子育て施策担当課長	保育課長	
	男女いきいき推進課長	子ども家庭支援センター所長	

会議に付した議案並びに審査結果

日程	議案番号	提 案 内 容	結 果
1	64号	東京都北区立学校の設置について	承認

日程	報告事項	報 告 内 容	結 果
2	36号	「北区基礎・基本の定着度調査」調査結果からの分析について	了承
3	37号	後援・共催事業に関する報告	了承

平成28年第6回東京都北区教育委員会臨時会会議録

平成28年7月26日(火) 13:30

清正教育長	それでは、出席委員が定足数に達していますので、会議は成立しています。 これより、平成28年第6回北区教育委員会臨時会を開会いたします。 日程第1、第64号議案「東京都北区立学校の設置について」を議題に供します。 事務局からの説明をお願いします。
学校支援課長	教育長
清正教育長	学校支援課長
学校支援課長	第64号議案、東京都北区立学校の設置について、ご説明申し上げます。1枚おめくりいただき、説明欄をごらんください。 滝野川第六小学校と紅葉小学校の統合校である滝野川もみじ小学校の新設を行うため、本案を提出するものでございます。 本文になりますが、平成29年4月1日に東京都北区立滝野川第六小学校と東京都北区立紅葉小学校を統合し、新たに東京都北区立滝野川もみじ小学校を、東京都北区滝野川三丁目72番1号に設置するものでございます。なお、この滝野川三丁目72番1号は現在の紅葉小学校の住所でございます。 以上、ご説明申し上げます。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。
清正教育長	ありがとうございました。 本件につきまして、ご質疑、ご意見はございますでしょうか。 (質疑・意見なし)
清正教育長	それでは、本件につきましては、原案どおり承認することにご異議ございませんでしょうか。 (異議なし)
清正教育長	ご異議ないと認め、本件は原案どおり承認することに決定させていただきます。 次に、報告事項に移ります。 日程第2、報告第36号「「北区基礎・基本の定着度調査」調査結果からの分析について」、事務局から説明をお願いします。
教育指導課長	教育長

清正教育長

教育指導課長

教育指導課長

それでは、平成28年度の「北区基礎・基本の定着度調査 調査結果からの分析」についてご説明申し上げます。

初めに1ページをお開きください。小学校の国語でございます。

小学校の国語につきましては、おおむね良好ですが、3年生、5年生の書く力に課題が見られるところです。

2ページのところの3年生のところに、また行ってみたいところについて書く設問については、無回答率が25.4%というふうになっております。また、下から2行目のところですが、メモの内容をもとに遊びのルールを説明する文を完成させる設問については、誤答の割合が42.6%と低くなってございます。

1枚おめくりください。3ページでございます。

また、5年生につきましても、メモをもとにお知らせの文章を書く設問ですが、指定された長さで書くことができたのが58.5%、2段構成で書くことができたのは38.0%ということで、課題となっているところでございます。

また、4年生ですが、3年生の配当漢字の問題の中で、例えば、住所という漢字ですとか、駅という漢字ですとか、こういったところが定着していなかったということがありました。また、主語と述語の組み合わせが正しく選択できなかったという課題もございました。

授業改善のポイントでございますが、やはり、書く力が課題ということで、4ページ、5年生、6年生のところでございますが、日ごろから200字程度の長さで自分の考えとその理由を繰り返し書かせるということが重要だと考えております。まずは書きなれるということが大切かと考えております。また、ただ書くのではなくて、ある程度条件を示しながら書くということも重要だというふうに考えております。

また、漢字につきましては、配当漢字というのが学年ごとにあるんですけれども、必要に応じて学年以前の漢字、または学年以降の漢字についても継続して指導していくことが大切だというふうに考えているところでございます。

続きまして、5ページをおあげください。中学校の国語でございます。中学校の国語につきましては、3年生の書く能力に課題がございましたが、その他は良好という状況でございました。

3年生ですが、6ページのところです。書く能力が目標値を1.5ポイント下回っております。3段構成で自分の立場を明確にして文章を書く設問で、無回答が20.4%と高い割合を示してございます。

また、漢字ですが、2年生の漢字の中で未熟というような漢字ですとか、慣れるというような漢字の正答率が50%台であったということがわかりました。

授業改善のポイントでございますが、やはり、書く力が不足しているということで、設問の意見文等については、自分のとった立場の理由を記述することが求められておりました。やはり、文章を書く際に、自分の意見と、それから、理由や根拠を示す、そういった練習を授業であるとか、またはその他の時間で、やはり時間をとって進めていく必要があるというふうに考えております。

また、漢字につきましては、作文を推敲する際に辞書を使いながら、また友達と確認しながら見直しをしたり、また、新聞等を読む中で理解を深めていくということも重要であると考えております。

続きまして、8ページをおあげください。小学校の社会でございます。社会につきましては、5年生の観察・資料活用の技能が課題がありました。資料を読み取って考えて表現するというところで、このところが課題となっております。また、八方位の理解や土地の断面図の読み取りの問題も、目標値をそれぞれ17.6ポイント、12.1ポイントほど下回っているところでございます。この八方位の理解につきましては、昨年度も同様の課題がございました。

9ページ、10ページをおあげください。授業改善のポイントですけれども、9ページの真ん中ら辺にありますけれども、やはり、問題解決的な学習を進める中で、写真ですとか、地図、地球儀、統計、年表などの基礎的資料の読み取り方を丁寧に指導していくことが重要であると考えております。また、地図を用いる学習場面で、とかく上、下、左、右と、そういったような方向を示す言葉を使ってしまうことがあるわけですが、そこを四方位を用いて言い直す、八方位を用いて言い直すなど、意識的に使う場を設定していくことが重要だというふうに考えているところでございます。

恐れ入りますが、11ページ、12ページをおあげください。中学校の社会でございます。中学校につきましては、1年生、3年生に特に大きな課題が見られます。

1年生につきましては、12ページのところに書いてありますけれども、知識・理解の部分で、例えば、貴族が生活している寝殿造、この様子を十分に把握していなかったということで、目標値を23.8ポイント下回っているだけでなく、無回答率も非常に多かったというところでございます。

また、2年生ですけれども、2年生については、例えば、聖武天皇の遺品が納められていた正倉院を理解している問題が22.2ポイントというふうに、低い正答率というふうになっております。また、平安時代に生まれた国風文化の背景、こういったことについても低くなっております。

3年生につきましては、六大陸の名称を十分理解していなかったり、また、明治政府が欧米に派遣した岩倉使節団というのを理解していなかったりということで課題となっております。これらにつきましては、基礎的、基本的な知識ということですが、やはり、この基礎的、基本的な知識をいかに定着させていくかということが重要になってまいります。

授業改善のポイントとしては、例えば、1時間の授業の最後に学習で出てきたキーワードを二、三個取り上げて、学習したことを説明するような言語活動を取り入れていく。そういった学んだ知識を活用する学習を継続的に取り入れていくことが重要であるというふうに考えております。

続きまして、14ページをおあげください。小学校の算数でございますが、小学校の算数につきましては、5年生と6年生が大きく課題がございました。

5年生で、16ページですけれども、課題の見られる内容は、概数ですとか分度器の読み取り、それから、図形の求積、図形の作図等でございます。

6年生につきましては、数と計算の領域において、四則混合の計算ですとか小数同士

の割り算、こういった問題が正答率が低くございました。

授業改善のポイントでございますけれども、例えば、5年生のほうで分度器の使い方が課題があったわけですが、やはり、読む方向を間違えますと、正答が 115° であるところを 65° としてしまったりということがございます。分度器を使う際に、角がどちらの方向に開いているのかを確認する指導を行うとともに、角度をはかる前に 90° より大きい小さいかなど、角の大きさについて見積もりをさせることも重要であると考えております。

また、6年生ですけれども、面積の公式があるわけですが、これは、面積を出す公式をそのまま使って、ただ答えを出すのではなくて、やはり、公式の意味を考えさせることが重要であるとと考えております。したがって、問題解決的な学習の中で、その公式の意味を具体的にみんなで考えるような、確認していくような、そういった学習が必要であるというふうに考えているところでございます。

恐れ入りますが、19ページをおあけください。中学校の数学については、1年生と3年生の幾つかの観点に課題が見られます。

1年生につきましては、比と比例、反比例、百分率が目標値より低いという状況がございました。また、3年生につきましては、連立方程式の問題が目標値を下回っているということがございました。

授業改善のポイントでございますが、特に比の理解ですけれども、授業においては、比は前項と後項に同じ数をかけても、同じ数で割っても、比の値が変わらないという性質について理解させることが重要でございます。特に、図を用いるなどして視覚的にわかるようにしたり、生徒がそれを説明したりする活動、こういう数学的な活動を行っていくことが重要だというふうに考えております。ただ単に計算上ではなくて、実際に子どもたちが説明をして、自分の言葉で説明するような活動を取り入れたり、視覚的にわかるような、そんな手段も使いながら、説明するような学習を取り入れていくことが重要だと考えております。

続きまして、小学校の理科、22ページでございます。

5年生を除いて課題が見られます。23ページでございますけれども、特に4年生につきましては、観察、実験の技能の観点の設問のうち、虫眼鏡の使い方について正答率が昨年度と同様に目標値を下回ったということでございます。また、6年生につきましては、ろ過という言葉が十分理解されていなかったというような課題もございました。

授業改善のポイントですけれども、この虫眼鏡の使い方にかかわる設問については、昨年度も同じ課題がありまして指導してきたんですが、まだ十分に定着していない状況がございまして、虫眼鏡につきましては、目に近づけて持ち、観察するものを前後に動かして使うんですけれども、虫眼鏡のほうを動かしてしまうというところで間違いが多かったということでございます。先生が演示して説明するとともに、実際の観察において児童が誤った使い方をしていけば、正しい方法を再度確認させて確実に定着させる必要があると考えております。

また、6年生につきましても、観察、実験を行う際ですけれども、24ページのところでございますけれども、メスシリンダーですとか、ろ過の器具、加熱器具や電流計、検流計そして顕微鏡など、さまざまな器具を使うわけですが、そういった活用の方法についても確

認をしていく必要があると考えております。

恐れ入りますが、25ページをおあけください。

1年生では若干改善した部分もありますが、依然、中学校の理科については、5教科の中で一番大きな課題であるというふうに考えているところでございます。やはり、基本的な知識、理解の部分で十分ではないことが明らかになっております。26ページのところに書いてありますが、1年生であれば、例えば、拍動という言葉ですとか、消化液というような言葉についての理解が不十分であった。2年生につきましては、対照実験を答えさせる問題ですとか、示相化石を答えさせる問題での正答率が余りよくありませんでした。また、3年生につきましては、観察、実験の技能の観点が非常に低いという課題がございました。また、熱分解ですとか露点を答えさせる、そういった問題についても課題がございました。

授業改善のポイントでございますけれども、一つは、小学校から中学校の円滑な接続に向けてということで、今現在、中学校での課題を小学校のほうに事前に伝えて、その課題のある問題を、小学校のほうでつまずきがないように問題を出してもらって、解いてもらって、理解を図ると、そんな活動を今、つまずきゼロプランということでしているんですけれども、それプラス、例えば、中学校で各単元の学習内容に入る前に、小学校段階の知識・技能の定着度を把握するために、調査問題の類似問題に取り組みせるとか、そういったことも有効な方法であると考えております。

恐れ入りますが、27ページをおあけください。

また、27ページの生命、生物分野のところ、真ん中より下のところに書いてありますけれども、長期休業中等の課題として、やはり、知識、理解の部分が弱いということで、一問一答集に取り組みさせるなど、ドリル的な知識の定着を確実に解答できるような取り組みも必要ではないかというふうに考えているところでございます。

28ページをおあけください。28ページの下のところに書かせていただいたんですけれども、北区の場合、昨年度の理科の全国学力・学習状況調査で、小学校6年生、それから、中学校3年生について理科の調査がございました。今年度はございませんでしたが、平成27年度は理科についての意識調査もございました。その中で、北区の子どもたちは全国や都の結果よりも高い頻度で理科の実験・観察を行っているということがわかっているところでございます。理科の実験・観察を非常にやっているんですけれども、こういう調査をすると、必ずしも観察・実験の技能が学力調査の中で反映されていないということがございます。そういった器具の使い方とか知識、理解、そういった部分も含めて、やはり、実験・観察をそればいいというものではなくて、やはり、実験・観察をする中できちんとまとめの作業を行うとか、また、器具の使い方をきちんと押さえるとか、やはりそういった張りのある実験、観察をしていかないと、なかなか学力には結びつかないというふうに考えているところでございます。

29ページをおあけください。中学校の英語でございます。3年生の外国語表現の能力に課題がありますが、その他は良好というふうになっております。特に3年生の外国語表現の能力ですけれども、やはり、ある程度まとまった内容で説明する文を書きあらわす、そういったことが苦手な子どもたちが多いということや、やはり、正しい語順できちんとした英文をつくるのが苦手な子どもたちも多いということで、今回はhave

t oという、何々しなければならぬという、そういった熟語を使って文を書く問題ですとか、不定詞を使って英作文を解くという問題が、ちょっと課題がございました。そういったところで書くということですが、ただ書かせるということだけではなくて、ドリル的なことも必要ですが、やはり、例えば、スピーチの原稿を書いてそれを発表する、聞かせるという活動があるのですが、そういった中で、書かせるという活動は継続的に行いながら確認していくと、そんな授業を行ったり、または、書くということで、授業の前半の中でできが悪い、課題がある文型を教員が英語でしゃべりながら子どもたちに理解させる、そんな活動も重要であるというふうに考えております。

以上、北区基礎・基本の定着度調査、平成28年度調査結果からの分析についてご説明をさせていただきました。ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

清正教育長

説明ありがとうございました。

本件について、ご質疑またはご意見はございますでしょうか。

森下委員

はい。

清正教育長

森下委員。

森下委員

例年このように詳しく分析していただいて、また、授業改善等私どもにも示していただいて、ありがたく思います。

ただ、残念なのは、どうしても例年の傾向の、特に理科ですとかが非常に低い状況であるということ、それで、教科書採択のときにもこれらを非常に意識しながら教科書を選び、まだ昨年の教科書採択の会議などが頭の中によみがえってくるんですけども、なかなか、そういう思いが成果として、数値の上ではあらわれていないということが、残念だなというふうに思っています。

ただ、現場ではいろいろな区の事業で、ALTですとか理科支援の人たち等を、人員配置していただいて、力を注いでいただいているということも、教員や保護者にも伝わっているのではないかなとは思っています。

3点思うところがあります。それは、まず、例年申し上げますが、このように詳しく考察をし、そして各教科についての授業改善を示していただいているわけですので、これらについて各学校の先生方、あるいは、教科部会等で、どこに課題があつて、区として、学校によっては大変すぐれている学校もあるかと思っておりますけれども、自校にはどこが必要かというところをしっかりと分析されると、よりこれから先よいのではないかと思うのが1点です。

それから、全体的なところで、従来、2学期制になりましたときに、そもそも夏休み前で1学期が終わり、そして夏休みがあつてまた2学期が始まりと、ぷつぷつと切れるのではなくて、夏休みを前期の延長として、学びの接続というか継続ということを図るために、2学期制ということもうたわれた中の大きな要因だったかと思っております。その結果、結局今までですと、1学期の末、2学期の末、3学期の末というふうに学期末というものがあつて、そこで学期末のテストだとかまとめだとか、そういう締めくくりがな

されていたように思うんですね。それがずっとつながっていて、10月の初めまで前期があると。そこでまとめという形に、仮になっているとしたら、やはり、子どもたちが学習したことがずっと継続して行って、そしてこのテストは1年が終わった翌年の春にやるものですから、やはり、知識、理解の定着というところからは、そんなに1年間習ったものがずっと頭の中に入っているわけでもないの、そういうことも一つ、知識・理解を定着させるかどうかというところでは、原因になっているのではないのかなと思います。

学校によっては、従来の3学期制に準じたようなテストをやっている学校も、学校だよりを拝見しますとありますよね。工夫をされていて、そして通知表のようなものも夏休み前に渡し、それをまた、夏休みに課題が解決するよというふうな工夫をなさっている学校も聞いたり見たりしておりますが、学校によってもそういうところの工夫を、子どもたちに知識の定着、特に理解で、最後の4項目目の各教科の知識、理解というところが基準より低いというところが、教科によって非常に多いわけですから、そういうことも一つ、定着をさせるためには大切な反復練習ではないのかなという感想を持っております。

やはり、知識なども常に全部全部頭の中に入れておくなんてことは不可能なことで、必要な時に辞書を開いたり、あるいは、図鑑を見たり、また教科書に戻ってできる、そういう能力が非常に大切だというふうに思います。テストにはそういうところはないので、結局知識・理解で、数値ではかれるものが結果として出てくるわけですので、そのあたりも、この表を見るときにいろいろなものを含んでいるなという、私は感想を持ちます。先ほどおっしゃった理科の実験などは、非常に意欲的に取り組んではいるのだけれども、数値の上ではこういうところに出てこないという。私はやはり取り組んでいるその意欲とかが非常に大切だなというふうにも思いますので、ちょっと複雑な思いで、毎年この黒塗りを見ております。

以上です。

清正教育長 ありがとうございました。何かコメントがあれば。

教育指導課長 教育長

清正教育長 教育指導課長

教育指導課長 ただいま、委員のほうからご指摘いただきましたとおり、2学期制ということで、正式には毎学期の評価という、1学期、2学期、3学期と、昔のような形で通知表を出すということはしていない状況でございます。先ほどご指摘のあったように、学校によってはミニ通知表というのでしょうか、そういったような形で出しているところや、この夏休みを通じて個人面談をやっているところや、また、4月から7月にかけて十分でなかった部分、課題を夏休みの補充学習の中で、つまずきを図っているというような学校もございます。

今回、特に理科について、なかなか状況が変わっていないという部分、知識、理解の

部分で変わっていないという部分もございますので、そういった反復練習ということで、そういったさまざまな機会を通じて、反復練習をすることについてまた学校のほうに周知するとともに、各校長会、副校長会を初め、さまざまな場面でこの調査結果を活用させていただきながら、改善を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

清正教育長

はい。ありがとうございました。

今の意見の最初のところの、各学校での調査結果のフィードバックというのは、何かお答えできることはありますか。

教育指導課長

教育長

清正教育長

教育指導課長

教育指導課長

この調査結果につきましては、これについては、北区全体としての分析ということでさせていただきます。これにつきましては、本日、教育委員会のほうでご説明させていただきましたので、今後学校のほうにまず周知をして、結果をもとに各学校ごとに授業改善推進プランという形で、課題と改善策のほうを話し合いをしてもらいます。

また、最近、サブファミリーによっては、この結果が出る前から、どういう問題ができていなかったのかということ、事前に中学校から小学校のほうに連絡というんでしょうか、情報交換をする場を事前に設けて、この夏休み中に改善点を考えて、できなかった問題についてどういうふうに取り組むのかを考えさせると、そういった取り組みをしているファミリーも少しずつふえてきてございます。そんな形で、この調査結果を、ただ調査をしたということに終わらせないで、各学校、先生のところまで反映させたいなと、こういうふうに思っております。

清正教育長

ありがとうございます。

ほかにかがでしょうか。

森岡委員

教育長

清正教育長

森岡委員

森岡委員

重複するような話になってしまうのですが、今の話を通して、教科書を、前回、理科を別の会社にたしかかえましたよね。そのときにもお話ししたと思うのですが、回答しない生徒さんの比率がすごく高いということです。先ほどからの反復練習じゃないのですが、付録にドリルがついている形の教科書を選定したわけですよね。それで、まだ一期に注視してもしょうがないので、まだ成果はあらわれていないのかもしれないのですが、教科書を改定して、成果が上がらないと、責任を感じてしま

います。今回も無回答の生徒の割合が高いように思うのですが、これは、多少これからも続いていくような比率になると思いますか。

要するに、余り改善されなくて、答えをしないという生徒さんの割合がとても高いように、これが続くということが考えられますかね。その点を。

教育指導課長

教育長

清正教育長

教育指導課長

教育指導課長

特に中学校につきましては、昨年度採択をしていただきました。新しい教科書については今年度からということになりますので、この調査にはまだ反映はされていないということで、来年の調査で、新しい教科書採択で問題集付きの教科書を採択となったわけですが、その影響がどうなるかというのは、そこで一つはかれるかなと思っているところでございます。

教育指導課としても、特に教科書のゴシック体で書かれているような、重要だよと書かれているような箇所とか、あとはこういう学力調査の中で、何回か共通して、もう課題だとわかっていることについては、今年度学校のほうに強調して周知を図っていきたいと思っております。

急に変わるというのはなかなか難しいかもしれませんが、努力をしながら、少しでも無回答率が少なくなるように努めていきたいというふうに考えております。

清正教育長

ありがとうございます。
ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

(質疑・意見なし)

清正教育長

それでは、ご質疑、ご意見ないようですので、本件に関する報告は終了させていただきます。

次に、日程第3、報告第37号「後援・共催事業に関する報告」について、事務局から説明をお願いします。

教育政策課長

教育長

清正教育長

教育政策課長

教育政策課長

それでは、報告第37号、後援・共催事業に関しまして報告させていただきます。恐れ入りますが、1枚おめくりいただきまして、1ページをお開きください。

今回は、記書き以下名義使用承認報告が2件と、事業、実績報告が5件でございます。

まず、1件目でございます。事業名が、桜の郷へようこそ、第14回東京陶芸展。主

催者が東京クレイワークスでございます。お示しのとおりの内容で、北とぴあ地下展示ホールを会場に行われます。

次に、2件目、事業名が、第20回親子でチャレンジ飛鳥山。主催者が東京都北区青少年委員会でございます。お示しのとおりの内容で、飛鳥山公園を会場に行われます。

恐れ入ります、おめくりいただきまして、2ページをごらんください。こちらから事業、実績報告でございます。2ページから始まりまして全部で5件となります。後ほどご覧いただければと存じます。

私からの報告は、以上で終わりでございます。

清正教育長

はい。ありがとうございました。

ただいまのご報告につきまして、ご質疑、ご意見ございますでしょうか。

(質疑・意見なし)

清正教育長

ご質疑、ご意見ないようですので、本件に関する報告は終了させていただきます。

以上で、本日の日程全てを終了いたしました。

これをもちまして、平成28年第6回教育委員会臨時会を閉会させていただきます。